

20112

CAGにおける看護師の散乱線被曝リスク認識と今後の課題

【背景】当院は年間総カテーテル件数 7000 件を超えるカテーテル専門施設で、従事者の被曝線量管理は重要な課題のひとつである。今回我々は、CAG 施行時の看護師の散乱線被曝リスクを検証した。【対象】無作為に抽出した 2013 年 7 月～2014 年 4 月に CAG を施行した 83 例【方法】電子ポケット線量計を術者、清潔助手、看護師、X 線防護衝立外側、同内側の計 5ヶ所に装着し、被曝線量を測定。【結果】測定結果は、術者 18.1  $\mu$ Sv、助手 1.98  $\mu$ Sv、看護師 3.80  $\mu$ Sv、衝立外側 92.7  $\mu$ Sv、衝立内側 0.09  $\mu$ Sv で、患者被曝線量(AK)は、819.1mGy であった。【考察】衝立外側の線量は、看護師の立ち位置における最大のリスク線量と考えられる。内側ではほとんど被曝をしないことから、衝立をいかに効率的に利用するかが最大のポイントとなる。また、従事者で最も高線量となった術者に対する看護師の線量は約 21.05%であるが、9 例では看護師の線量が術者の線量を上回っているが、人的な要因が示唆された。【結語】CAG における看護師の散乱線被曝リスクを検証した。今後は患者被曝線量に大きく影響するとされる、患者の体格や手技内容によって、看護師の被曝リスクの推測が可能か検証を進めていきたい。